



M I G A コラム

「世界診断」

2014年7月25日

西村 英俊

明治大学国際総合研究所フェロー
東アジア・アセアン経済研究センター
事務総長



東京大学法学部卒、1976年通産省入省。海外貿易開発協会アジア太平洋代表、通商政策局南東アジア大洋州課長、愛媛県理事、中小企業庁経営支援部長、日中経済協会専務理事、日中東北開発協会理事長等を経て、2008年6月より国際機関 ERIA(東アジア・アセアン経済研究センター)事務総長。早稲田大学客員教授、宮崎産業経営大学客員教授、明治大学国際総合研究所フェロー、ダルマプルサダ大学文学部教授。

芭蕉の哲学と ERIA の研究

私は ERIA (Economic Research Institute for ASEAN and East Asia、以下 ERIA) という国際機関の責任者として ASEAN 共同体の推進にかかわってきているが、40年以上俳句にもかかわってきた。知的創造集団としての ERIA がこの5年間でサミットのシェルパ機関として活動が評価されるまでに至ったが、俳人西村我尼吾としての経験の実践が、なにがしかの参考になるのではないかと考えている。そこでその点について日頃から思うところを少し述べてみたい。なお、芭蕉は生涯において多くの認識論的金字塔を打ち立てているが、2012年の月刊俳句界(株式会社文学の森)4月号に「蕉風内面具象写生について」という小論を發表させていただいた。参照していただければ幸いである。

西村我尼吾の俳人としての基本には、芭蕉の哲学がある。さきの小論の中で芭蕉の基本的「認識」態度として次の2点をあげた。

1 「もの見えたるひかり、いまだ心にきえざる中に
いひとむべし」(服部土芳『三冊子』「赤冊子」)

ERIA がある研究課題について研究を開始するときに、研究者達に期待するのはこの言葉が示すところである。「もののひかり」を見る研究に努めること。そのきっかけは、サミットの首脳の要請であつたり、閣僚会議の要請であつたり、まちまちであるが、要はその要請を要請たらしめている、大いなるものの存在を感じることができるかどうかである。芭蕉はその大いなるものを「造化」と

呼んだ。1967年のASEAN形成以来、幾多の経済的な困難を乗り越え、あたかも大いなるものに導かれるかのようにASEANは進化を遂げてきた。中国が社会主義市場経済という切り札を示したとき、ASEANはAFTA (ASEAN Free Trade Area) というカードを切った。またアジア通貨危機に直面したときに更にそのカードを強め、経済共同体というアイデアを示した。ASEANには、世界の動きをつかさどるものに対して、自らの存在を謙虚に捉え、語り合いながら、もののひかりを感じながら、自らの運命を切り開いていくという特徴があるように思う。東アジアの経済統合を考える時、中国のWTO加盟は極めて重要な出来事である。中国は2001年にWTOに加盟し、2006年には、WTO加盟の際に求められた各国からの要請を満たし、改革開放により中国のコネクティビティを基本的に完成させ、その結果GDPを5年で倍増させた。その翌年2007年にERIAの設立が合意された。それはASEANが共同体設立を2015年へと5年早め、経済共同体のための具体的工程表であるAEC (ASEAN Economic Community、以下AEC) ブループリントとASEAN憲章を制定した年であった。そこにERIAが時代の神から求められている大きな意思が感じられる。ERIAはその大きな意思が具体的な要請の形となって現れる前に発する「もののひかり」を見る努力が要請された。その場合、状況に応じて自由に、柔軟に感応すること、いわば即興性が求められる。「即興」ということは、興に感じずばやくその場で表現することと捉えられている。それは表現するまでの時間の短さとして考えられがちであるが、そのような時間の短さだけが問題なのではない。確かにタイムリーであることは重要であるが、それよりも研究成果が興に即したものとなっているか、それは要請に対して、速やかな本質的返答となっているばかりでなく、時間を経てもなお新しみを首脳、閣僚をはじめとする政策当事者や、研究者に提供できるような内容になっているかを事前に用意できるかが大切なのである。あたかも、求められてすぐに示したかのような、問題意識の新しさと、研究内容の新しさ、深さの持続が必要なのである。そのためには、正式に要請される1年前には研究を開始している必要がある。「もののひかり」が見えるか否かがERIAという新興組織がASEANの中に場所を確保するか否かにとって決定的に重要なものであった。

芭蕉の言葉として人口に膾炙する「不易流行」ということも「もののひかり」を見た結果もたらされる「即興性」と密接に関連している。芭蕉は、現実の流行に非常に敏感で、各種の情報に精通していた。ERIAの研究においても現実のニーズを早く敏感に察知し、調査研究しそこから長期的視野にたった政策提言を行うことが求められている。

2 「虚に居て実を行ふべし」(各務支考『俳諧十論』)

「もののひかりを見る」とは、流行の現実に身をおきながら、世界の趨勢をもたらす時代の意思を感じつつ、短期的な研究成果の蓄積の上に現実的かつ普遍的な政策提言を見出すことに努めることである。その結果ERIAという国際機関が提唱する「胸中山水」とも言うべき理念形の体系が形造られてきている。それは3つの山河から形成される。一つ目の山は経済統合の深化、二つ目の河は格差の是正。そして最後の山は持続的経済成長の実現である。国際機関としてのERIAに喫緊の課題

としてまず求められたのは、リーマンショックへの対応としての地域開発計画を統合し強化する総合開発計画の策定であった。2009年に東アジアサミット首脳から求められ、2010年にはアジア総合開発計画を作成し東アジアサミットで高く評価された。その後毎年フォローアップをし、着実な進展をサミットに報告している。2010年には、ASEAN 経済統合の推進のための中核的プランである、ASEAN 連結性マスタープランの基本コンセプトを提唱し、第2章、第3章をドラフトした。2011年には、2015年の経済統合以降を見据えた方向性を示す、ジャカルタフレームワークをサミットに報告し、シェルパ機関としてはじめて認められた。その後、2012年にはASEAN 経済共同体ブループリントの実施中間評価報告を行うとともに、2013年には、IEA と協力して東南アジアエネルギー見通しの作成を行い、また ASEAN 中小企業政策インデックスの作成を通じた ASEAN 各国の政策評価を OECD と協力しながら実施した。これらはすべて3つの山河に連なるものであり、それらを同時に達成することが可能であるということを示すことを理論と実証の両面から示すものである。2013年には35本の研究を200名以上の研究者を投入して実施している。「虚に居て実を行ふ」とは、以上述べてきた ERIA が形成してきた胸中山水である研究成果の体系を基にして（虚に居て）、不易流行の精神の元に、現実の世界の現地調査を充実させ、研究をさらに発展進化させ、実際の政策策定に意味のあるインプットや政策提言を行う（実を行う）ことである。実に居て虚を行ってはいならない。つまり現実の経済状況の真っ只中に居ながら、空理空論を展開してはいならないのである。

ERIA 事務総長が俳諧師であることについて少し述べてみたい。芭蕉の研究者としてまた俳人として高名な中島斌雄の名著「現代俳句の創造（毎日新聞社）」に面白いくだりがある。「俳諧とは元来『滑稽』の謂である」と司馬遷の史記の「滑稽列伝」の古注釈にあるという。

古注釈「索隠」によると「滑稽ハ、非ヲ言ヒテ、是ノ若ク、是ヲ言ヒテ非ノ若ク、ヨク同異ヲ乱ス」とある。真理とは多面的であり、是非につき視点を変えれば見方も変わる。俳諧の精神とはこのような一面性にとらわれることのない多面的説明可能性に柔軟に対応できる精神のことである。今から3000年前の俳諧師は「ただ面白おかしい言動で人を笑わせるだけではなく、時には他の王侯に使いし、談笑のうちに相手を説得することを行うのだ。」と斌雄は述べている。時代の意思の求めるものは不易であってもその現れ方は多様である。ERIA は2015年のASEAN 経済共同体完成のためのAEC スコアカードフェーズ4をはじめとする多様な研究政策提言を準備しているが、2015年以降の方向を示すため、程なく「ASEAN RISING—ASEAN and AEC Beyond 2015」という研究を完成させる。ERIA が今みている「もののひかり」と「虚にいて行う実」の俳諧の精神とはこういうものである。

ERIA はもともと2006年に二階元経済産業大臣とグリア OECD 事務総長の間で、東アジア版 OECD を作ろうという壮大な意気投合の基に生まれたアイデアが結実したものである。2008年末に正式の国際機関になってから5年の実績を上げ東アジアサミット、ASEAN サミット、各種閣僚会議にERIA 事務総長は参加の機会を与えられ、ERIA の研究者の血のにじむような努力の結果もたらされた研究成果を携え、まさに古代の俳諧師のような仕事をしてきた。そして2014年5月5日には

パリの OECD 閣僚会議の折に OECD 事務総長と ERIA 事務総長とのあいだで多面的な協力に関する正式の MOU が調印され、安倍総理からも閣僚会議の基調講演で評価された。ASEAN の多くの閣僚からも祝福された。調印式の席上、グリア OECD 事務総長から発言を求められたので小生は俳句を朗読して発言に代えさせてもらった。

二階グリアの夢を五月に調印す 西村我尼吾

Nikai Gurria' s Dreams

Signed abloom

Under the May sun

Gania Nishimura

最後に ERIA が到達すべき理想の境地を芭蕉の言葉を借りて示したい。

「造化にしたがひて四時を友とす。見る処花にあらずといふ事なし、おもふ所月にあらずといふ事なし」(笈の小文)